

畜産経営技術高度化促進事業

肉用牛繁殖経営計画作成による和牛増頭の支援
支援指導研究会報告書

平成15年度

社団法人 山口県畜産振興協会

はじめに

肉用牛繁殖経営の戸数減少傾向は、全国的な傾向であり、かつての和牛地帯である中国地方においても、その傾向は加速している。肉用牛繁殖雌牛の飼養頭数も農家戸数の減少に伴い減頭傾向にあり、山口県は、中国・四国地方ではその減少率は少ないものの、現在の畜産農家の年齢構成を見ると、おのずと結果は見えている。

一方で、地域は限定されるものの、父親の経営を継承し、規模拡大を模索している後継者や新規就農者として和牛繁殖経営を開始する事例も見られる。また、放牧技術の確立と普及により果樹農家や林業へ和牛繁殖を取り入れる事例など新たな分野から繁殖経営が拡大する可能性も見られる。このようは経営体を支援するために、ハード面の補助事業や家畜導入事業などが用意されているが、これからの不透明な時代の中で畜産をやっていくためには、経営者自らが和牛に託す夢を具体的な数値として計画を立て（plan）、実行し（do）、また見直す（see）ことが重要となる。また、そのための手法や支援体制を整備することが、これからの経営者を育てるために必須であると考えている。

平成13年度に主に酪農経営についての経営計画作成手法を支援指導研究会で検討した。今回は、ある程度具体的に肉用牛繁殖経営の作成についてその内容を以下に示す。今後、実践を積み重ね、多くの指導者の知恵や経験が加えられ、誰もが共通して活用できる手法となることを期待する。

平成16年3月
社団法人 山口県畜産振興協会

肉用牛繁殖経営計画作成による畜産経営の支援

・経営計画作成の手順

今回は、経営計画作成手順を理解してもらうため、新規に肉用牛繁殖経営を開始するAさん（架空）の経営計画作成する手順を示すことで、その過程を理解して欲しい。

実際に肉用牛繁殖経営を開始するためには、様々な障害があり、牛舎や自給飼料確保の機械などの設備投資が必要となる。また、繁殖牛も高資質の牛は経産牛でも高額で購入することになる。一方で、放牧技術の確立により、繁殖牛は雑草が生えている限り放牧ができることが実証され、子牛や育成を管理できる牛舎だけの経営も計画できる。しかし、放牧で大規模な経営を行うような土地を確保することは、新規では難しい。牛だけで生活費を得るのではなく、「JAなどのオペレーター、家畜人工授精業務、稲作の請負及びアルバイトなどをしながら・・・」というのが現実であろう。とにかく最低限必要な設備投資＝資金借入額に抑えて、牛の飼養技術を高めながら自分の力量に合わせた規模拡大を計画するべきである。

（１）新規に肉用牛繁殖経営を開始するAさんの経緯

A君は、農大を卒業したが、就職はせず、家でアルバイトをしていた。同居していた祖父は、3頭の和牛を飼っていたが、腰痛が悪化し廃業を決めた。発育の良かった「はるか1」をA君に譲った。A君は薦められるままに共進会へ参加し、思わず上位に入ってしまった。いろいろな和牛農家に刺激を受け、肉用牛経営を決意した。

貯金はあまりなかったので、低コストでの経営を考え、畜産試験場や放牧を取り入れた農家で研修し、自分の土地に簡易牛舎を50万円で建てた。畜試で見た電気牧柵セットを25万円で購入。中古の軽トラックと自走モアを50万円と20万円で購入した。

近所は、転作に幸いと借地を提供し、自給飼料はのべ150a作付けができるようになり、イナワラは200a分堆肥と交換することができる。

繁殖牛は、すぐに子牛が販売できることを考え、血統のそろった「ふみ」1号～6号を未經産導入（@40万円）、「あゆみ」1号と2号を経産牛導入（@20万円）し、それ以降は、毎年1頭保留、廃用は1頭程度とし、飼養規模を10頭程度に維持するように計画した。

経営開始にあたっては、関係者の支援を受け、新規就農資金250万円と牛購入代として近代化資金294万円を借りることを計画した。返済はそれぞれ13年と6年を考えている。

（２）Aさんの計画を数値化する。

年次別家畜動態表と飼養頭数の算出(表3、表4)

表3は年次別の牛の動態を集計したものである。ステージ毎に期首頭数、該当する1年間の出入り(生産頭数、仕向け頭数、廃用頭数など)、期末頭数で整理した。表4は、年間平均飼養頭数と技術目標として収支計画の基本となる年間平均飼養頭数を集計し、生産技術の数値(子牛生産率、子牛販売保留率、雌牛更新率)を示すようにした。なお、平均分娩間隔と平均種付け回数は動態表とはリンクしておらず、動態をつくるうえでの条件として理解して欲しい。

Aさんの場合、平成15年に自家保留した牛1頭と外部導入の牛8頭により期末時点には10頭規模とした。そのため、平成16年には8頭、17年には9頭の子牛を出荷する計画となった。

肉用牛改善目標の設定(表5、表6、表7)

表5は、肉用牛経営の収入と支出の項目を示し、その目標単価を年次別に決定するようにしている。成雌牛1頭当たり年間の単価あるいは年間単価などがあり、科目によって異なってくる。

収入部門

売上；子牛出荷価格は去勢と雌に分けて決めるようにした。それ以外の収入に関するものとしては、成雌牛廃用、堆肥販売、奨励金・補給金、家畜共済金を個体毎あるいは年間で算出するようにした。受取共済金は、廃用する牛のうち共済対象割合を指定することで決定するようにした。

支出部門

生産費用；飼料代が割合も大きく重要となる。表6のように成雌牛、子牛、育成のステージに応じた飼料給与体系をもとに1日当りの金額を算定することとした。この中で、自給するサイレージや堆肥交換のイナワラなどは、購入単価0円とし、表7の自給飼料必要量の算出により給与量から算出した作付け必要面積と収量の予測を参考に作成することとした。自給飼料費は、実際の作付け面積と自給飼料生産のために必要な経費を10a当たり必要金額(種子代や肥料代)で積み上げるようにした。

それ以外の項目として、もと畜費、授精料(精液代、技術料)、敷料費、雇用労賃、光熱費、燃料費、診療医薬品費、修繕費、小農具費、諸材料費、賃借料、その他経費、一般管理他として、販売経費、支払利息(制度資金以外)、支払地代、事務費、租税公課、共済掛金、基金掛金などを家畜単位や年単位で算出するようにした。家計費については、家族人数と1人当たり家計費から必要な金額を算出することとした。

Aさんは、農林事務所から畜産振興協会を教えられて、相談に行き、牛に必要な登録料などを確認し、光熱費などは全国平均値を参考にした。自分で先進的な農家や農協、町農林課など関係する所へ行くべきとも教えられ、いろいろ

な所で話を聞き、一つ一つ金額を決めていった。

参考；

| | |
|--------|---|
| 改良関係 | 子牛登記料 2,200 円/頭、雌登録料 6,700 円/頭、会費 1,600 円/人、基本・本原登録移動証明 1,500 円/頭 |
| 子牛基金関係 | 黒毛 2,475 円、その他(無角、見島) 15,575 円、乳用種 3,175 円、交雑種 1,550 円。 |
| 衛生関係 | アカバネ 1,550 円、異常産 1,680 円、5 種混合 1,580 円 |

牛に係る経費は多種多様であり、上表のように県下共通のものから立地条件や機械の能力により変動するものもある。安易に公表されている平均値を使うだけでなく、考えながら積算することが重要である。

経営収支計画の作成(表8～表12)

家畜の飼養計画と改善目標が決定すると、経営収支計画が作成できる。この表は、損益計算ではなく資金繰り表である。

収入は、肉用牛関係の販売金額、奨励金や受取共済金及びその他収入を計上している。未収や売掛はないとしている。

支出については、もと畜費と購入飼料費については、金額も多いため、購入金額＝支払金額とはならないケースが多いため、「前年繰越＋当期購入 次年繰越＋利息」として実際に支払った金額を計算するようにしている。それ以外は未払いがあっても経費として計上している。

収入と支出から差引資金過不足を計算し、資金返済、新規設備投資、新規借入、自己資金を計算して農業所得を算出する。そして、必要とする家計費との差により資金過不足と累積資金過不足を示していく。なお、資金の返済計画については、別途年次計画表(表9)、設備投資は設備投資計画(表10)を作成する。

Aさんの場合、平成15年はもと牛購入294万円、飼料代62万円など合計433万円と牛舎など145万円の投資をし、繁殖雌牛対応として近代化資金294万円、運転資金など用途の多い新規就農資金250万円を借りることとした。さらに、祖父から100万円の支援を受けた。生活は同居のため、農協に作った普通預金残高65万円であった。平成16年は310万円の売上があり、142万円の収支となり、近代化資金62万円を返済した。平成17年は344万円の売上があったが、所得はようやく102万円となった。

計画の概要と見直し

～ を集約したものが表11経営計画の概要である。この表は経営概況、収支計画に加え、成雌牛1頭当たりの収支および安全性を示す内容として、借入金残高や償還金額を示した。累積資金過不足がマイナスにならないように繰り返し計画を見直すことが必要となる。また、今後家畜を飼養する上で適正な

対策が必須となる糞尿処理については、表 1 2 により年次別の堆肥生産量を推定し、その活用方法を検討することが必要である。

・経営開始後の支援

Aさんのように少し有利な条件で経営を開始したとしても、実際には計画通りに子牛を出荷できるまでには、飼養管理技術の向上が必須であり、経営管理についても自らが、整理・集計し、毎年の確定申告へも対応しなくてはならない。支援する側とすれば、経営開始後の指導の方へもより力を入れる必要があり安定経営を支援することが和牛増頭の基本である。

記録・記帳の励行

「記録をしない農家は経営者ではない」と力説していたコンサルタントの言葉はなぜか今も覚えている。牛を飼う人に手帳は必須であり、牛舎の繁殖カレンダーやカレンダーへのメモは重要である。今の若い人は学校でもパソコンに馴染んでおり、パソコンを上手く使うことは、膨大な牛のデータや経営の数値を整理・保存するために有効となる。

子牛市場結果の反省

和牛繁殖経営においては、子牛出荷の成績が所得に大きく反映してくる。成雌牛は移動放牧でも実証されているように、かなり手を抜くことが可能となっているが、子牛の育成管理技術は一朝一夕にはいかいようである。協会では、農林事務所と連携し、表 1 3 に示すような「市場の反省点」を若手経営者に記入してもらい、数名を集めた反省会を定期的に行うことを計画している。疾病から飼料採食状況などを気づいたことを整理することは、同じ失敗を繰り返さないためにも重要であり、この情報に生産検査時の測尺数値、市場出荷時の体重、体高、胸囲などを加味して検討することで改善点を見つけてもらう。未だに生時体重を計らない若手がいるが、生時体重とできれば生後 6 0 日体重は母牛の哺育能力も推定できるので習慣づけたい。

税務申告への対応

肉用牛経営では、肉用牛特例措置が続いてきたこともあり、未だに白色申告が主流であるが、消費税の免税が 1,000 万円以下へ引き下げられたこともあり、肉用牛経営でも大規模経営では青色申告へ対応できる経理処理が必要となる。できれば複式簿記による処理が望ましく、これは牛だけの通帳を作るなどの整理をすれば、そんなに難しいものではない。市販の簿記ソフトも使いやすいものへと改良されており、活用について、今後継続した支援をしていきたい。

表3. 年次別牛の動態表

| 項目 | | H15 | H16 | H17 | 内容 |
|-------------|---------|------|-----|-----|-----------------------|
| | | 実績 | 計画 | 計画 | |
| 成 雌 牛 | 期首頭数 | 1 | 10 | 10 | 期首の飼養頭数 |
| | 繰入頭数 | 1 | 1 | 1 | 育成仕向けから |
| | 未経産導入頭数 | 6 | 0 | 0 | 外部からの未経産牛導入 |
| | 経産導入頭数 | 2 | 0 | 0 | 外部からの経産牛導入 |
| | 廃用頭数 | 0 | 1 | 0 | 廃用した牛 |
| | 期末頭数 | 10 | 10 | 11 | 期首 + 導入 - 廃用 |
| 子 牛 | 期首頭数 | 1 | 9 | 10 | |
| | 分娩頭数 | 9 | 10 | 10 | 当期に分娩した頭数 |
| | 販売頭数 | 0 | 8 | 9 | 子牛を販売した頭数 |
| | うち | 0 | 3 | 4 | うち雌子牛の頭数 |
| | 育成仕向頭数 | 1 | 1 | 1 | 後継牛として保留した頭数 |
| | 事故頭数 | 0 | 0 | 0 | 事故子牛頭数 |
| | 期末頭数 | 9 | 10 | 10 | 期首 + 分娩 - 販売・仕向け - 事故 |
| 育 成 | 期首頭数 | 0 | 0 | 0 | |
| | 繰入頭数 | 1 | 1 | 1 | 子牛から |
| | 外部導入頭数 | 0 | 0 | 0 | 外部から導入した育成雌牛 |
| | 成雌仕向頭数 | 1 | 1 | 1 | 初回種付けした牛 |
| | 事故頭数 | 0 | 0 | 0 | 事故育成牛頭数 |
| | | 期末頭数 | 0 | 0 | 0 |

肉用牛の飼養区分

成雌牛；初回種付けをした雌牛は成雌牛とする。未経産牛と経産牛からなる。

子牛；分娩から子牛出荷あるいは保留までの時期。保留決定は通常8ヶ月から9ヶ月。

育成牛；8ヶ月程度から初回種付けまでの時期。

表4. 飼養頭数と技術目標

| 項目 | H15 | H16 | H17 | 内容 |
|------------|--------|-------|-------|-------------------|
| | 実績 | 計画 | 計画 | |
| 成雌牛飼養頭数 | 8.1 | 10.3 | 10.3 | 年間常時飼養頭数 |
| うち経産牛 | 6.7 | 9.5 | 9.5 | 経産牛の常時飼養頭数 |
| 経産牛率 | 82.7% | 92.2% | 92.2% | 経産牛 ÷ 成雌牛 |
| うち未経産牛 | 1.4 | 0.8 | 0.8 | 未経産の常時飼養頭数 |
| 子牛飼養頭数 | 5.2 | 5.8 | 5.8 | 子牛の常時飼養頭数 |
| 育成牛飼養頭数 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 育成牛の常時飼養頭数 |
| 子牛分娩頭数 | 9 | 10 | 10 | 当期分娩頭数 |
| うち早産死亡頭数 | | | | |
| 子牛生産率(%) | 111.1% | 97.1% | 97.1% | 子牛分娩頭数 ÷ 成雌牛頭数 |
| 子牛出荷頭数 | 0 | 8 | 9 | 子牛出荷頭数 |
| うち 頭数 | 0 | 3 | 4 | うち雌牛頭数 |
| 子牛保留頭数 | 1 | 1 | 1 | 育成仕向け頭数 |
| うち 育成仕向 | 1 | 1 | 1 | |
| 子牛死廃頭数 | 0 | 0 | 0 | 子牛死亡頭数 |
| 子牛販売保留率 | 12.3% | 87.4% | 97.1% | 子牛出荷・保留 ÷ 成雌牛頭数 |
| 子牛廃用率 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 子牛死亡頭数 ÷ 成雌牛頭数 |
| 廃用牛()頭数 | 0 | 1 | 0 | 成雌牛廃用頭数 |
| 雌牛更新率 | 0.0% | 9.7% | 0.0% | 成雌牛廃用頭数 ÷ 成雌牛常時頭数 |
| 平均分娩間隔(月) | 13.0 | 13.0 | 13.0 | 計画した分娩間隔 |
| 平均産次(産) | 1.6 | 2.4 | 3.2 | 当期分娩牛の平均産次 |
| 平均種付け回数(回) | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 計画した種付け回数 |

数値入力

表5 経営改善目標(肉用牛)

| 項目 | 単位 | H15 | H16 | H17 | 内容 | |
|-------------|-------------------|--------|-------|-------|-------|-----------------|
| | | 実績 | 計画 | 計画 | | |
| 収入の部 | | | | | | |
| 1 | 子牛販売価格(去勢) | 千円/頭 | 400 | 400 | 400 | |
| 2 | 子牛販売価格(雌) | 千円/頭 | 320 | 320 | 320 | |
| 3 | 成雌牛販売価格 | 千円/頭 | 100 | 100 | 100 | |
| 10 | 堆肥販売 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 11 | 奨励金・補給金 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 12 | 繁殖部門 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 13 | 肥育部門 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 14 | 共済金 | 千円/頭 | 50 | 50 | 50 | |
| 15 | 繁殖部門 | 千円/頭 | 50 | 50 | 50 | |
| 16 | 共済対象割合 | % | 30% | 30% | 30% | |
| 19 | 受取利息その他営業外収益 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 支出の部 | | | | | | |
| 20 | 購入飼料費 | | | | | |
| 21 | 成雌牛1頭当り購入飼料費 | 円/頭/日 | ¥80 | 80 | 80 | 飼料費算定から |
| 22 | 育成牛1頭当り購入飼料費 | 円/頭/日 | ¥119 | 119 | 119 | |
| 23 | 子牛1頭当り購入飼料費 | 円/頭/日 | ¥191 | 191 | 191 | |
| 27 | 飼料作付け10a当り自給飼料資材費 | 千円/10a | 18.7 | 18.7 | 18.7 | 自給飼料から |
| 28 | 授精料 | 千円/回 | 3.0 | 3.0 | 3.0 | |
| 29 | もと牛購入価格 | | | | | |
| 30 | 繁殖用子牛1頭当り購入価格 | 千円/頭 | 400.0 | 400.0 | 400.0 | |
| 31 | 経産牛購入価格 | 千円/頭 | 200.0 | 200.0 | 200.0 | |
| | 未経産牛購入価格 | 千円/頭 | 400.0 | 400.0 | 400.0 | |
| 38 | 敷料費 | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 39 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 41 | 雇用労費 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 42 | 同 雇人数 | 人/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 43 | 同 賃金 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 44 | 光熱費(電気・水道) | 千円/頭 | | | | |
| 45 | 成雌牛1頭当り年間光熱費 | 千円/頭 | 3 | 3 | 3 | |
| 47 | 動力費(燃料) | 千円/頭 | | | | |
| 48 | 成雌牛1頭当り年間動力費 | 千円/頭 | 3 | 3 | 3 | |
| 50 | 自給飼料燃料代 | 千円 | 40.0 | 50.0 | 50.0 | 自給飼料から |
| 51 | 診療医薬品費 | 千円/頭 | | | | |
| 52 | 成雌牛1頭当り年間診療医薬品費 | 千円/頭 | 4 | 4 | 4 | |
| 54 | 同 注射代 | 千円/頭 | | | | |
| 55 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 57 | 同 薬品代 | 千円/頭 | | | | |
| 58 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 60 | 同 診療費 | 千円/頭 | | | | |
| 61 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 63 | 同 その他 | 千円/頭 | | | | |
| 64 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 66 | 年間修繕費 | 千円/年 | 105 | 105 | 105 | |
| 67 | 同 牛舎修繕費 | 千円/年 | 5 | 5 | 5 | |
| 68 | 同 機械修繕費 | 千円/年 | 100 | 100 | 100 | |
| 69 | 小農具費 | 千円/頭 | | | | |
| 70 | 成雌牛1頭当り年間小農具費 | 千円/頭 | 3 | 3 | 3 | |
| 72 | 諸材料費 | 千円/頭 | | | | |
| 73 | 同 材料・消耗品費 | 千円/頭 | | | | |
| 74 | 成雌牛1頭当り年間消耗品費 | 千円/頭 | 3 | 3 | 3 | |
| 76 | 同 作業服費 | 千円/年 | 2 | 2 | 2 | |
| 77 | 賃借料 | 千円/年 | 42 | 42 | 42 | |
| 78 | 同 共同機械 | 千円/年 | 30 | 30 | 30 | |
| 79 | 同 リース料 | 千円/年 | 12 | 12 | 12 | |
| 80 | その他経費 | 千円/頭 | | | | |
| 81 | 同 削蹄料 | 千円/頭 | 3 | 3 | 3 | |
| 82 | 同 登録(初回授精時) | 千円/頭 | 4 | 4 | 4 | |
| 83 | 同 生産検査(子牛) | 千円/頭 | 2 | 2 | 2 | |
| 84 | 同 その他 | 千円/頭 | | | | |
| 85 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 1 | 1 | 1 | |
| 87 | 販売経費 | | | | | |
| 88 | 同 市場出荷 | % | | | | |
| 89 | 繁殖部門(子牛出荷1頭当たり) | % | 4% | 4% | 4% | |
| 91 | 同 出荷運賃 | 千円/頭 | | | | |
| 92 | 繁殖部門(出荷1頭当たり) | 千円/頭 | 5 | 5 | 5 | |
| 94 | 支払利息 | | | | | |
| 95 | 同 営農 | %/年 | 5.0% | 5.0% | 5.0% | |
| 96 | 支払地代 | | 20 | 20 | 20 | |
| 97 | 同 牛舎敷地 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 98 | 同 草地 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 99 | 事務その他 | | 50 | 50 | 50 | |
| 100 | 同 事務費 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 101 | 同 研修費用 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 102 | 同 電話代 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 103 | 同 新聞雑誌 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 104 | 同 会費 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 105 | 租税公課 | 千円/年 | 15.6 | 15.6 | 15.6 | |
| 106 | 同 固定資産税 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 107 | 同 車両税 | 千円/年 | 4 | 4 | 4 | |
| 108 | 同 機械他税金 | 千円/年 | 1.6 | 1.6 | 1.6 | |
| 109 | 同 その他 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 110 | 共済掛け金 | | | | | |
| 111 | 同 家畜共済掛け金 | 千円/頭 | | | | |
| 112 | 繁殖部門(成雌牛1頭当たり年間) | 千円/頭 | 6 | 6 | 6 | |
| 114 | 同 車両保険 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 115 | 同 建物保険他 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 116 | その他事業外 | | 50 | 50 | 50 | |
| 117 | 同 基金・配合飼料基金 | 千円/年 | 30 | 30 | 30 | |
| 118 | 同 雑費 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 119 | 同 接待費 | 千円/年 | 10 | 10 | 10 | |
| 120 | その他支出 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 121 | 同 出資金 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | |
| 122 | 自己資金(貯金取崩等) | 千円/年 | 1,000 | 0 | 0 | 積立金の取り崩し、定期満期など |
| 123 | 家計費 | 千円/年 | 0 | 0 | 0 | 必要な家計費 |
| 124 | 同 家族人数 | 人 | 0 | 0 | 0 | |
| 125 | 同 家族1人当り家計費 | 千円/年 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | |

表6 飼料費の算定

子牛飼料(生時~8カ月令)

| ステージ | 哺乳期 | | | 離乳期 | | | | | 総計 | 単価 | 価格 | 飼料成分 | | | | |
|-------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----------|------|--------|------|------|------|
| | 期間(月) | 分娩 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | | 7 | 8 | DM量 | TDN量 | DCP量 |
| スターター | | 0.5 | 1.0 | 0.8 | | | | | | | 70 | 100 | 7,000 | | | |
| 育成用 | | | | 0.4 | 2.0 | 3.0 | 4.0 | 4.0 | 4.0 | | 529 | 45 | 23,805 | | | |
| 稲わら | | | | | | | 1.0 | 1.0 | 1.0 | | 91 | 0 | 0 | | | |
| 粗飼料 | | 0.1 | 0.4 | 1.0 | 1.0 | 1.5 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | | 304 | 40 | 12,160 | | | |
| | | | | | | | | | | | 子牛期間飼料費 | | 42,965 | | | |
| | | | | | | | | | | | 同 損耗+税 | | 46,402 | | | |
| | | | | | | | | | | | 1日当り内粗飼料 | | 4.0 kg | ¥191 | | |
| | | | | | | | | | | | | | 1.6 | | | |

損耗率 3 %
消費税 5 %

育成牛飼料(9~15カ月令)

| ステージ | 育成期 | | | | | 総計 | 単価 | 価格 | 飼料成分 | | | | | | | |
|------|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|----------|-----|--------|------|--|--|
| | 子牛期間(月) | 9 | 10 | 11 | 12 | | | | 13 | 14 | 15 | DM量 | TDN量 | DCP量 | | |
| 育成用 | | 4.0 | 3.5 | | | | | | | | | | | | | |
| 繁殖用 | | | 0.4 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | 2.0 | | | | | | | | |
| 稲わら | | | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | | | | | | | | |
| 粗飼料 | | 3.0 | 3.0 | 3.0 | 4.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 育成期間飼料費 | | 23,532 | | | |
| | | | | | | | | | | | 同 損耗+税 | | 25,415 | | | |
| | | | | | | | | | | | 1日当り内粗飼料 | | 7.0 kg | ¥119 | | |
| | | | | | | | | | | | | | 4.9 | | | |

繁殖牛飼料(未経産~)

| ステージ | 哺乳期 | | | 離乳期 | | | | | | | | | 総計 | 単価 | 価格 | 飼料成分 | | | | | |
|------|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----------|----|--------|------|------|--|
| | 期間(月) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | | | | 12 | 13 | DM量 | TDN量 | DCP量 | |
| 繁殖用 | | 2.0 | 4.0 | 4.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 2.0 | 699 | 42 | 29,358 | | | |
| 稲わら | | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | | 304 | 0 | 0 | | | |
| 粗飼料 | | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | 6.0 | | 2,371 | 0 | 0 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 繁殖飼料費 | | 29,358 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 同 損耗+税 | | 31,707 | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 1日当り内粗飼料 | | 9.0 kg | ¥80 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6.8 | | | |

表7 自給飼料必要量の算出

| | H15 | H16 | H17 | 根拠 | |
|--------------|--------|--------|--------|---------|--------|
| 成雌牛頭数 | 8.1 | 10.3 | 10.3 | | |
| 育成牛頭数 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | | |
| 子牛頭数 | 5.2 | 5.8 | 5.8 | | |
| | | | | 1日1頭当り | 自給割合 |
| イワラkg/年・成雌牛 | 2,274 | 2,892 | 2,892 | 0.8 | 100% |
| イワラkg/年・育成 | 156 | 156 | 156 | 0.9 | 100% |
| イワラkg/年・子牛 | 710 | 792 | 792 | 0.4 | 100% |
| 年間計(kg) | 3,141 | 3,840 | 3,840 | 10a当り収量 | |
| 必要面積(a) | 70 | 85 | 85 | 450 | kg/10a |
| | | | | 1日1頭当り | |
| 乾草kg/年・成雌牛 | 17,738 | 22,555 | 22,555 | 6.0 | 100% |
| 乾草kg/年・育成 | 730 | 730 | 730 | 4.0 | 100% |
| 乾草kg/年・子牛 | 0 | 0 | 0 | 0.0 | 0% |
| 年間計(kg) | 18,467 | 23,285 | 23,285 | 10a当り収量 | |
| 必要面積(a) | 154 | 194 | 194 | 1,200 | kg/10a |
| | | | | 10a当り | |
| イワラ交換堆肥(t/年) | 20.9 | 25.6 | 25.6 | 3 | t/10a |
| 自給飼料堆肥(t/年) | 30.8 | 38.8 | 38.8 | 2 | t/10a |

自給飼料作付面積(実際)

| | | | |
|-------------------|-------|-------|-------|
| 自給飼料作付け面積 a | 100 | 150 | 150 |
| 同 冬作 a | 100 | 100 | 100 |
| 同 夏作 a | 0 | 50 | 50 |
| 10a当り収量 | | | |
| 同 冬作 kg | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| 同 夏作 kg | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| 乾草%(生草当たり) | | | |
| 同 冬作 | 20.0% | 20.0% | 20.0% |
| 同 夏作 | 20.0% | 20.0% | 20.0% |
| 乾草収量 | 6.0 | 9.0 | 9.0 |
| 同 冬作 t | 6.0 | 6.0 | 6.0 |
| 同 夏作 t | 0.0 | 3.0 | 3.0 |
| 種子代 | | | |
| 同 冬作 千円/10a | 1.2 | 1.2 | 1.2 |
| 同 夏作 千円/10a | 3.5 | 3.5 | 3.5 |
| 肥料・農薬代 | | | |
| 同 冬作 千円/10a | 4 | 4 | 4 |
| 同 夏作 千円/10a | 4 | 4 | 4 |
| 資材費・その他 | | | |
| 同 冬作 千円/10a | 3 | 3 | 3 |
| 同 夏作 千円/10a | 3 | 3 | 3 |
| 飼料作付け10a当り自給飼料資材費 | | | |
| 同 冬作 千円/10a | 8.2 | 8.2 | 8.2 |
| 同 夏作 千円/10a | 10.5 | 10.5 | 10.5 |
| イナワラ確保面積 a | 200 | 200 | 200 |
| 10a当り収量 | 450 | 450 | 450 |
| イナワラ利用料 t | 9 | 9 | 9 |
| 同 1kg当り評価額 円 | 10 | 10 | 10 |
| 同 評価額 千円 | 90 | 90 | 90 |
| 自給飼料・イワラ収量合計 t | 15.0 | 18.0 | 18.0 |
| 自給飼料・イワラ費用合計 | 172 | 224.5 | 224.5 |
| 自給飼料燃料代 | | | |
| 同 冬作 千円/10a | 2 | 2 | 2 |
| 同 夏作 千円/10a | 2 | 2 | 2 |
| イナワラ燃料代 千円/10a | 1 | 1 | 1 |
| 燃料代合計 | 40 | 50 | 50 |

表8 経営収支計画

単位:千円

| 項目 | | H15 | H16 | H17 | 内容 |
|---------|----------|-------|-------|--------------------------------|-----------|
| | | 実績 | 計画 | 計画 | |
| 収入 | 肉用牛 | | | | 売上関係 |
| | 子牛販売額 | 0 | 3,108 | 3,444 | |
| | 肉用牛販売額 | | | | |
| | 廃用牛販売額 | 0 | 100 | 0 | |
| | 堆肥販売 | 0 | 0 | 0 | |
| | 合計 | 0 | 3,208 | 3,444 | |
| | 補助 | | | | |
| | 奨励金等 | 0 | 0 | 0 | 基金などの奨励金 |
| | 共済金 | 0 | 15 | 0 | 家畜共済金など |
| | 合計 | 0 | 15 | 0 | |
| その他収入 | 0 | 0 | 0 | 牛以外の収入 | |
| 合計 | 0 | 3,223 | 3,444 | | |
| 支出 | 繁殖も | | | | 雌牛導入事業に相当 |
| | と | | | | |
| | 利息 | | | | |
| | 牛計 + - + | 2,940 | 0 | 0 | |
| | 購入 | | | | |
| | 前年繰越 | 0 | 0 | 0 | |
| | 当期購入 | 621 | 727 | 727 | |
| | 次年繰越 | 0 | 0 | 0 | |
| | 利息 | | | | |
| | 飼料 | | | | |
| | 計 + - + | 621 | 727 | 727 | |
| | 諸 | | | | 生産費用 |
| | 経 | | | | |
| | 費 | | | | |
| | 自給飼料費 | 187 | 281 | 281 | |
| | 授精料 | 24 | 31 | 31 | |
| | 雇用労賃 | 0 | 0 | 0 | |
| | 敷料費 | 8 | 10 | 10 | |
| | 水光熱費 | 24 | 31 | 31 | |
| | 燃料代 | 64 | 81 | 81 | |
| | 診療医薬品費 | 32 | 41 | 41 | |
| | 修繕費 | 105 | 105 | 105 | |
| | 小農具費 | 24 | 31 | 31 | |
| | 消耗材料費 | 26 | 33 | 33 | |
| | 賃借料 | 42 | 42 | 42 | |
| | その他雑費 | 54 | 65 | 65 | |
| | 計 | 592 | 751 | 751 | |
| 生産費用計 | 4,153 | 1,478 | 1,478 | 牛 + 飼料 + その他生産費用 | |
| 一般 | | | | 営農利息など | |
| 管 | | | | | |
| 理 | | | | | |
| 計 | 70 | 199 | 208 | | |
| 租 | | | | 税金 | |
| 税 | | | | | |
| 負担 | | | | | |
| 計 | 114 | 127 | 127 | | |
| 肉牛部門支出計 | 4,337 | 1,804 | 1,813 | | |
| その他支出計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 費用合計 | 4,337 | 1,804 | 1,813 | 生産費用 + 一般 + 租税 | |
| 差引資金過不足 | -4,337 | 1,419 | 1,631 | 収入 - 支出 | |
| 制度 | | | | 資金から | |
| 資金 | | | | | |
| 元 | | | | | |
| 利 | | | | | |
| 計 | 0 | 617 | 612 | | |
| 短期 | | | | | |
| 資金 | | | | | |
| 元 | | | | | |
| 利 | | | | | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| その他 | | | | | |
| 金 | | | | | |
| 元 | | | | | |
| 利 | | | | | |
| 計 | 0 | 0 | 0 | | |
| 資金返済合計 | 0 | 617 | 612 | | |
| 新規設備投資計 | 1,450 | 0 | 0 | 設備投資から | |
| 新規借入金 | 5,440 | 0 | 0 | 資金から | |
| 自己資金 | 1,000 | 0 | 0 | | |
| 農業所得 | 653 | 801 | 1,020 | 収支 - 資金返済 - 設備投資 + 新規借入 + 自己資金 | |
| 家計費 | 0 | 0 | 0 | 必要な家計費 | |
| 家計費控除額 | 653 | 801 | 1,020 | 農業所得 - 家計費 | |
| 期首時繰越 | 0 | | | | |
| 累積資金過不足 | 653 | 1,454 | 2,474 | 前年過不足 + 当期家計費控除 | |

表9 資金計画

残高:期首時残高

単位:円

| 資金区分 | | 当初借入額 | 利率 | 償還期限 | H15 | H16 | H17 | |
|-----------------------|----------------|-----------------------|------|--|--|--|--------------------------------|---|
| 制 度 資 金 | 新規就農資金 (運転) | 2,500,000 H15.12.1 | 0.0% | 15 3 12月15日 | 残高 新規 利息 元金 0 2,500,000 0 0 | 2,500,000 0 | 2,500,000 0 | 新規借入額 期首残高×利息 0 0 当期返済元金 0 |
| | 近代化資金 (繁殖牛) | 2,940,000 H15.12.1 | 1.0% | 0 0 | 残高 新規 利息 元金 0 2,940,000 0 588,000 | 2,940,000 29,400 588,000 | 2,352,000 23,520 588,000 | |
| | 資金 () | | 0.0% | 0 0 | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| | 資金 () | | 0.0% | 20 5 | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| 合 計 | 5,440,000 | | | 残高 新規 利息 元金 合計 0 5,440,000 0 0 0 617,400 | 5,440,000 0 29,400 588,000 617,400 | 4,852,000 0 23,520 588,000 611,520 | | |
| 短 期 資 金 | 証書 () | | 0.0% | 0 0 | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| | 証書 () | | 0.0% | 6 0 | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| | 計 | 0 | | | 残高 新規 利息 元金 合計 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 | |
| そ の 他 資 金 | 資金 () | | 0.0% | | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| | 資金 () | | 0.0% | | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| | 資金 () | | 0.0% | | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| | 資金 () | | 0.0% | | 残高 新規 利息 元金 0 0 0 0 | 0 0 | 0 0 | |
| 合 計 | 0 | | | 残高 新規 利息 元金 合計 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 | | |
| 総 合 計 | 5,440,000 | | | 残高 新規 利息 元金 合計 0 5,440,000 0 0 0 617,400 | 5,440,000 0 29,400 588,000 617,400 | 4,852,000 0 23,520 588,000 611,520 | | |

表10 設備投資計画(建物・構築物)

(千円)

| 項目 | 導入年月 | 規模・能力 | 数量 | 投資額 | 補助率 | 補助残額 | 資金対応 |
|--------|--------|-------|----|-----|------|------|------|
| 簡易牛舎 | H15.03 | 10 | 1 | 500 | 0.0% | 500 | |
| 電気牧柵一式 | H15.03 | 200m | 1 | 250 | 0.0% | 250 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 合計 | | | | 750 | | 750 | |

設備投資計画(機器具・車両)

| 項目 | 導入年月 | 能力 | 数量 | 投資額 | 補助率 | 補助残額 | 資金対応 |
|-----------|--------|----|----|-----|-----|------|------|
| 軽トラック(中古) | H15.03 | | 1 | 500 | | 500 | |
| モア(中古) | H15.03 | | 1 | 200 | | 200 | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 合計 | | | | 700 | | 700 | |

設備投資計画(土地)

| 項目 | 導入年月 | 能力 | 数量 | 投資額 | 補助率 | 補助残額 | 資金対応 |
|----|------|----|----|-----|-----|------|------|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 合計 | | | | 0 | | 0 | |

| | | | | | | | |
|----|--|--|--|-------|--|-------|--|
| 総計 | | | | 1,450 | | 1,450 | |
|----|--|--|--|-------|--|-------|--|

表11 経営計画の概要

| 項目 | H15 | H16 | H17 | 内容 |
|--------------|-----|------|------|-----------------|
| 成雌牛常時頭数(頭) | 8.1 | 10.3 | 10.3 | 初回種付け以降の繁殖雌牛 |
| 子牛出荷頭数(頭) | 0 | 8 | 9 | 市場などへ販売した頭数 |
| 子牛販売保留率(%) | 12% | 87% | 97% | 子牛販売・保留÷成雌牛常時頭数 |
| 自給飼料作付け面積(a) | 100 | 150 | 150 | 年間作付け延べ面積 |
| イワラ確保面積(a) | 200 | 200 | 200 | いなわらを収集した面積 |

収支計画

単位:千円

| | | | | |
|-------------|--------------|--------------|--------------|---------------------------|
| 肉用牛部門収入 | 0 | 3,208 | 3,444 | 年間総売上額 |
| うち子牛出荷 | 0 | 3,108 | 3,444 | 子牛売上額 |
| うち肥育牛出荷 | 0 | 0 | 0 | 肥育牛売上額 |
| 収入合計 | 0 | 3,223 | 3,444 | |
| 肉用牛生産費用 | 4,153 | 1,478 | 1,478 | 牛を生産するための直接経費 |
| うち素牛 | 2,940 | 0 | 0 | 外部から導入した成雌、育成、子牛 |
| うち飼料費 | 621 | 727 | 727 | 当期に支払った飼料代 |
| うちその他 | 592 | 751 | 751 | 当期に支払った飼料以外の直接経費 |
| 肉牛一般管理費 | 70 | 199 | 208 | 当期に支払った販売経費、利息、地代など |
| 肉牛租税負担 | 114 | 127 | 127 | 当期に支払った税金、共済、基金掛金など |
| 肉用牛部門支出計 | 4,337 | 1,804 | 1,813 | 償還金以外の年間総費用 |
| 支出合計 | 4,337 | 1,804 | 1,813 | |
| 収支 | 4,337 | 1,419 | 1,631 | 収入合計-支出合計 |
| 償還金額 | 0 | 617 | 612 | 当期返済する資金元金と利息 |
| 新規設備投資 | 1,450 | 0 | 0 | 牛以外の設備投資額合計 |
| 資金+自己対応 | 6,440 | 0 | 0 | 資金借入、預金取り崩しなどの合計 |
| 農業所得 | 653 | 801 | 1,020 | 収支 償還 新規設備 + 資金手当て |
| 家計費 | 0 | 0 | 0 | 必要な家計費を計上 |
| 過不足 | 653 | 1,454 | 2,474 | 前期からの累積過不足 |

参考(常時1頭当たり;成雌牛)

単位:千円

| | | | | |
|-------------|------------|------------|------------|-----------------|
| 肉用牛部門収入 | | 311 | 334 | 上記収支の各項目÷成雌飼養頭数 |
| うち子牛出荷 | | 302 | 334 | |
| うち肥育牛出荷 | | | | |
| 収入合計 | | 313 | 334 | |
| 肉用牛生産費用 | 513 | 143 | 143 | |
| うち素牛 | 363 | | | |
| うち飼料費 | 77 | 71 | 71 | |
| うちその他 | 73 | 73 | 73 | |
| 肉牛一般管理費 | 9 | 19 | 20 | |
| 肉牛租税負担 | 14 | 12 | 12 | |
| 肉用牛部門支出計 | 535 | 175 | 176 | |
| 支出合計 | 535 | 175 | 176 | |
| 収支 | 535 | 138 | 158 | |
| 償還金額 | | 60 | 59 | |
| 新規設備投資 | 179 | | | |
| 資金+自己対応 | 795 | | | |
| 農業所得 | 81 | 78 | 99 | |
| 家計費 | | | | |
| 過不足 | 81 | 141 | 240 | |

安全性(単位:千円)

単位:千円

| | | | | |
|---------------|---------|-------|-------|---------------|
| 総借入残高(総額・期首時) | 0 | 5,440 | 4,852 | 期首時の総借入金残高 |
| うち資金借入残高 | 0 | 5,440 | 4,852 | 長期、短期資金の残高 |
| うちもと牛・購買繰越残高 | 0 | 0 | 0 | 牛預託、飼料買掛の残高 |
| 借入金償還負担金 | | 60 | 59 | 資金の返済元金・利息 |
| 総借入残高(肉用牛1頭当) | 0 | 528 | 471 | 上記の各項目÷成雌飼養頭数 |
| うち資金借入残高 | 0 | 528 | 471 | |
| うちもと牛・購買繰越残高 | 0 | 0 | 0 | |
| 借入金償還負担金 | #VALUE! | 6 | 6 | |

表12 堆肥生産量の算出

| | H15 | H16 | H17 | 根拠 |
|--------------|--------|--------|--------|----------|
| 成雌牛頭数 | 8.1 | 10.3 | 10.3 | |
| 育成牛頭数 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | |
| 子牛頭数 | 5.2 | 5.8 | 5.8 | |
| 肥育牛頭数 | | | | 1日1頭当り |
| 生ふん排泄量 | | | | |
| 排泄量kg/年・成雌牛 | 59,130 | 75,190 | 75,190 | 20.0 |
| 排泄量kg/年・育成 | 1,825 | 1,825 | 1,825 | 10.0 |
| 排泄量kg/年・子牛 | 9,490 | 10,585 | 10,585 | 5.0 |
| 排泄量kg/年・肥育 | 0 | 0 | 0 | 15.0 |
| 年間計(t) | 70 | 88 | 88 | |
| | | | | 自由に設定 |
| 尿排泄量 | | | | |
| 排泄量kg/年・成雌牛 | 31,930 | 40,603 | 40,603 | 10.8 |
| 排泄量kg/年・育成 | 913 | 913 | 913 | 5 |
| 排泄量kg/年・子牛 | 6,643 | 7,410 | 7,410 | 3.5 |
| 排泄量kg/年・肥育 | 0 | 0 | 0 | 8.5 |
| 年間計(t) | 39 | 49 | 49 | |
| おが屑必要量t/年 | 18 | 22 | 22 | 25% |
| ふん + おが屑量t/年 | 88 | 110 | 110 | |
| 堆肥生産量t/年 | 62 | 77 | 77 | 70% |
| イワラ交換堆肥(t/年) | 21 | 26 | 26 | 3 t/10 a |
| 自給飼料堆肥(t/年) | 31 | 39 | 39 | 2 t/10 a |
| 販売可能堆肥(t/年) | 10 | 13 | 13 | |

表13. 市場の反省点(今回の市場で、良かった点・悪かった点等について記入。)

| 氏名 | 市場 | 入場番号 | 名号 | 生時体重 | 下痢・風邪の状況 | その他疾病の状況 | えさ食いの状況 | 飼養管理全般に関すること | 反省点 |
|----|----|------|-------|--------------------|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|--|--|
| A | 1月 | 1000 | 山口3 | 30 | ・共済に一度も見てもらっていない。 ・風邪0回 ・下痢0回 | ・特に無し | ・食いは良かった。(1日3回給与) | ・床換えは、1ヶ月に2回、4ヶ月齢で去勢 ・消毒剤を塗る。 ・運動場で自由に運動(4ヶ月齢頃から1日中) | ・血統が良かったので、価格も体重も良かったと思う。 ・特に、他の牛と違う飼養管理はしていない。 |
| A | 1月 | 1001 | 山口4 | 小さい方だった。 | ・生れてすぐ点滴を数日間するぐらい悪い下痢。 | ・去勢を忘れていた。(普通:4ヶ月齢前後今回は5ヶ月と20日) | ・食いは良かった。 | ・あまり床換えをしなかった。できなかった。 | ・シビレタ割には大きくなった。 |
| A | 1月 | 1002 | やまぐち5 | 初産にしては、大きい牛(引っ張った) | ・上の牛の下痢がうつたがすぐ治った。 | | ・食いは良かった。 | ・上の牛と同じ | ・種付が悪かったので、「永土井」にしたが、「平茂勝・紋次郎」には、もったいなかったかな。あはは。 |
| B | 1月 | 1003 | 山口6 | 25 | ・特になし。 | ・なし | ・食いは3頭中、特によく、粗飼料を中心に食べていた。 | ・秋の忙しい時、なかなか床換えができなかった。 ・観察の時間が短い。 | ・重度の病気も無く、食い込みが良かったので、市場価格が良かった。 ・手間を増やす。 |
| B | 1月 | 1004 | 山口7 | 20 | ・離乳時に下痢。早めにギンベルなどで治療をした。 | ・なし | ・房の2頭に少し食い負けしていたと思う。 | ・秋の忙しい時、なかなか床換えができなかった。 ・観察の時間が短い。 | ・房の他の牛に食い負けて、体重が思うように乗らなかった。その場合、別飼いすれば良かった。 ・手間を増やす。 |
| B | 1月 | 1005 | やまぐち8 | 20 | ・特になし | ・なし | ・最初は良くなかったが、群飼いにしてからは競って食べていた。 | ・秋の忙しい時、なかなか床換えができなかった。 ・観察の時間が短い。 | ・雌なので、体重は今少しだが、血統が良く、体高があったので良かった。 ・手間を増やす。 |

| | | | | | | | |
|---|-------|----|--|--------|---|-----------------------------------|--|
| 例 | へきひかり | 30 | 風邪をひいて、鼻水が出ていた。早めに、共済を呼んで治療した。下痢は、していない。 | 角が折れた。 | 食いは、全体的によかった。特に、乾草の食いが良かった。(出荷1ヶ月前は、1日、3kg以上食べたかもしれない。) | 堆肥舎がいっぱいなので、床換えしていなかった。(2ヶ月に1回程度) | 床換えしなかったが、病気にならず、餌を良く食べた。価格も45万円と良かった。血統も、良かったので繁殖雌になったかもしれない。しかし、できるだけ、床をきれいにし、衛生管理に気をつけたい。 |
|---|-------|----|--|--------|---|-----------------------------------|--|